

2013 年国連総会に向けて 日本政府への提言書

特に進捗が遅れている MDG4 を達成するために、最も貧しく弱い立場に置かれた子どもの栄養改善と予防可能な疾病対策に投資し、その成果を説明してください。

期限までに MDG4 を達成するには、多くの力を集結し、取組みを加速することが必要です。

5 歳は子どもの一生としては短すぎます。

今世紀の初めにミレニアム開発目標（MDGs）が国連で作られた時には、1,200 万人の子どもが毎年 5 歳になるまでに亡くなっていました。各国政府や国際機関、NGO や企業などの多大な努力により、その数は年間 690 万人にまで削減されました。しかし、2015 年の MDGs 達成期限まで残り 2 年となった今、MDG4（「子どもの死亡率を 1990 年と比べて 3 分の 1 に削減する」）の達成は困難との見込みが高く、これまで以上に取組みを加速することが求められています。そして、政府、国際機関、NGO、企業が、これまでの教訓を元に、協力して行動することが不可欠です。

ワールド・ビジョンは、予防可能な要因で毎日約 1 万 9,000 人の子どもたちが命を落としているという不公平な現実を受け入れることはできません。

日本政府に求められる取組み

ワールド・ビジョンは、日本政府に対し、女性と子どもの健康に関する世界戦略およびムスコカ・イニシアティブ、国際保健政策 2011-2015、国際保健外交戦略など、子どもの健康を改善するための約束を守ることを求め、以下の政策を提言します。

1. 最も貧しく弱い立場に置かれた乳幼児および母親に保健サービスが確実に届くようにしてください。

- ODA の保健分野への支出を増額してください。

日本政府の保健分野への支出は ODA の二国間援助で 2.1%ⁱ、国際機関などを含んだ Gross ODA Disbursement でも 2.8%ⁱⁱに過ぎず、ほかの DAC 諸国の二国間援助の水準 10~15%に比べて非常に低い状況です。一方、内閣府の調査ⁱⁱⁱでは、日本政府が重点を置くべき国際協力分野として、73.1%の回答者が保健医療を 1 位に挙げ、また 57.9%が保健医療分野の国際協力を増額すべきであると回答しています。

日本政府はこれまで、国際保健の分野でリーダーシップを発揮してきましたが、同分野に対する支出状況はそれに見合った額になっていないのが実情です。国民からの期待も高く日本がリーダーシップを発揮し得る保健分野への支出を増やし、MDG4 の達成に向けた取組みを加速してください。

- 最も貧しく弱い立場に置かれた乳幼児および母親に保健サービスが確実に届くようにしてください。

1 年間に 5 歳未満で亡くなる 690 万人のうち、570 万人はサブサハラ以南のアフリカと南アジア地域が占めています^{iv}。この割合は 1990 年の 69%より上昇し、2011 年では 83%となっています。また農村地域で生まれたり、母親が基礎教育を受けていないことも死亡率を高めています。さらに、5 歳未満の死亡率が最も高い 10 カ国の内 8 カ国は、紛争などの脆弱性を抱えた国となっています^v。

日本政府は、OECD 諸国に比べ LDCs（後開発途上国）への支援の比率が約半分

（2011 年:日本 17.55%、DAC 平均 34.69%、2010 年:日本 16.36%、DAC 平均 33.63%）で

あり、その分、LMICs（低中所得国）への支援が多くなっています（2011年:日本 55.86%、DAC 平均 35.47%、2010年:日本 58.23%、DAC 平均 37.67%）^{vi}。LDCs、特に MDG4 の進捗が遅れているサブサハラ以南のアフリカと南アジア地域、加えて、シエラレオネやソマリアなどの紛争の影響のある国で、5歳未満の子どもたちが命を落とすことがなくなるよう、特に対策をとってください。

2. 世界中の乳幼児が、成長に必要な栄養を摂取でき、予防可能な疾病で命を落とすことがなくなるように支援を実施してください。

● **栄養への支援を強化するとともに、SUN の取組みを加速してください。**

女性が妊娠してから子どもが2歳の誕生日を迎えるまでの1,000日間に適切な栄養を摂取することは、健全な脳の発達や身体的成長のみならず、出産中および出産後の致命的な疾病を回避し、これに抵抗する力をつけるのに貢献することが明らかとなっています^{vii}。さらに乳幼児と子どもの栄養不良の減少に向けた投資は、途上国に推定3%の経済成長をもたらします^{viii}。

一方、日本政府による保健分野に対する支出のうち、栄養分野への支出は0.11%に止まっており、G8諸国の中で最小です^{ix}。また、日本の栄養支援の99%は国際機関を通して実施されており、ほかのOECD諸国による国際機関を通じた栄養分野への支援の比率49%とはかけ離れています^x。保健医療分野の中でも、特に栄養分野への支出を増加してください。

また、日本政府が設立に貢献した「栄養への取組み拡充（Scaling Up Nutrition:以下SUN）」の進捗のモニタリング、教訓の共有、また、まだ加盟していない国に対する参加の呼び掛けにイニシアティブを発揮してください。MDGsの達成が最も遅れており、栄養不良の子どもが最も多く暮らしている脆弱国と紛争国でこれまでにSUNに署名した国はほとんどありません。これらの国々の参加を実現するためには、焦点を絞った支援が求められます。

● **予防可能な疾病をなくすため、基礎的な対策を確実に実行してください。**

5歳未満乳幼児死亡の主要な要因である肺炎、下痢、マラリア、妊娠期・出生時・新生児期合併症は、すべて予防可能であり、支援をすることで確実に削減できます。具体的な対策は下表の通り、高度先進的な対策などは、まったく不要なものばかりです。これらの基礎的な対策が確実に実行されるようにしてください。

また、これらの対策をより着実なものとするためには、コミュニティ・ヘルス・ワーカーが適切に訓練を受け、保健システムの中で適切な役割を果たすことが大切です。

乳幼児死亡率を下げるための6つの予防可能な疾病対策

<p>妊娠期合併症を予防するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦への適切な栄養補給 ・ 適切な産前ケア ・ 家族の知識など 	<p>肺炎を予防するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生後6か月間の母乳育児 ・ 6か月から5歳までの子どもへの適切な栄養補給 ・ 予防接種 ・ 日常的な石鹸による手洗い ・ 適切な薬の迅速な服用など
<p>出生時合併症を予防するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦への適切な栄養補給 ・ 適切な産前ケア ・ 家族の知識 ・ 出産に関して知識と技術を有する介護者など 	<p>下痢を予防するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生後6か月間の母乳育児 ・ 6か月から5歳までの子どもへの適切な栄養補給 ・ 予防接種 ・ 日常的な石鹸による手洗い ・ 衛生的な飲料水へのアクセス ・ 経口保水塩や亜鉛などの補給など
<p>新生児の合併症を予防するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な産後ケア ・ 衛生的な環境での出産 ・ 早急な母乳育児の開始 ・ 産後の母親と子どもへの専門家による家庭訪問 ・ 出生直後の親とのスキンシップ（カンガルーケア）など 	<p>マラリアを予防するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生後6か月間の母乳育児 ・ 6か月から5歳までの子どもへの適切な栄養補給 ・ 殺虫剤投与された蚊帳 ・ 殺虫スプレー ・ 家族の知識など

3. 各国政府が、世界の乳幼児の死亡率を下げるために取り組んでいる活動の資金・内容・成果について、定期的にわかりやすく説明してください。

- MDG4 の達成に向けた活動を加速するためには、説明責任の向上が重要です。「援助効果向上に関するパリ宣言」の原則と女性と子どもの健康に関する世界戦略で約束された「国連女性と子どもの健康のための情報と説明責任委員会」の提言に則り、定量化された目標とモニタリング・評価のための有効なメカニズムを定め、説明責任を果たしてください。具体的には、MDG4 に関して日本政府が表明した以下の事項に関し、年度毎の内容・支出・達成結果を公表し、透明性を高めてください。
 - ✓ 新国際保健政策 2011－2015（2011 年から 5 年間で国際保健に 50 億ドルの提供を約束）
 - ✓ G8 ムスコカ・サミットで発表された約束（2011 年から 5 年間に母親、新生児および子どもの健康に 5 億ドルの提供を約束）
 - ✓ ラクイア食料安全保障イニシアティブ（2009 年から 2012 年末までに 220 億ドルの拠出を約束）^{xi}
 - ✓ キャンプ・デービッド・サミットでの「食糧の安全保障と栄養のための新同盟」で表明された約束
- 二国間援助のほか、多国間援助についても、MDG4 に関する取組みについてモニタリングを行い、その成果を報告するとともに、結果を次なる支援に活かしてください。

ⁱ 2011 年実績。外務省 政府開発援助（ODA）白書 2012 年版

ⁱⁱ 2011 年実績。OECD: <http://www.aidflows.org/>

ⁱⁱⁱ 内閣府 保健医療分野の国際協力に関する特別世論調査 平成 22 年 7 月

^{iv} United Nations The Millennium Development Goals Report 2013

^v United Nations The Millennium Development Goals Report 2013

^{vi} OECD http://webnet.oecd.org/dcdgraphs/CPA_donor

^{vii} World Vision The Best Start-Saving Children's Lives in Their First Thousand Days September 2011

^{viii} S Grantham-McGregor et al 'Development potential in the first 5 years for children in developing countries' The Lancet 2007

^{ix} OECD <http://stats.oecd.org/qwids/>

^x Development Initiatives Aid to Nutrition April 2013

^{xi} 2009 年 G8 ラクイア・サミットで表明された「ラクイア食料安全保障イニシアティブ」の終了期限は 2012 年末でしたが、実際に提供された額は約束された総額の 75%に留まっています。